

令和6年度
発生予察情報

発生予報第2号（概要版）

令和6年5月27日発行
宮城県病害虫防除所
(TEL:022-275-8982)

作物名	病害虫名	発生予報	備考
水稲	イネドロオイムシ	発生時期: やや早い 発生量: やや少	
	イネミズゾウムシ	発生時期: 平年並 発生量: 平年並	
りんご	斑点落葉病	発生量: 多	
	ハダニ類	発生量: やや少	
	アブラムシ類	発生量: 少	
なし	黒星病	発生量: 平年並	
うめ	かいよう病	発生量: 平年並	
	黒星病	発生量: 平年並	
	アブラムシ類	発生量: 平年並	
	コスカシバ	発生量: 平年並	
冬春きゅうり	うどんこ病	発生量: 平年並	
	褐斑病	発生量: やや多	
	べと病	発生量: 平年並	
	アザミウマ類	発生量: 平年並	
	コナジラミ類	発生量: 平年並	
	ハダニ類	発生量: 平年並	
夏秋トマト	うどんこ病	発生量: 平年並	
	アザミウマ類	発生量: やや多	
	アブラムシ類	発生量: 平年並	
	コナジラミ類	発生量: 平年並	
夏秋なす	うどんこ病	発生量: やや多	

夏秋なす	アザミウマ類	発生量: やや多	
	アブラムシ類	発生量: 平年並	
	コナジラミ類	発生量: 平年並	
	ハダニ類	発生量: 平年並	
	ハモグリバエ類	発生量: 平年並	

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第3号の発行日は6月10日(月)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ

トップページ

登録フォーム

ー初期害虫の発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月16～21日

定点調査:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台5月23日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期 (ふ化盛期)	発生量
イネドロオウムシ	やや早い 6月第2半旬(6/6～6/10)	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -)
- (2) 成虫の本田侵入には日最高気温 20℃以上であることが好適であり、向こう2週間は最高気温が 20℃以上の日が続くと予報されている。(- / +)

病害虫名	発生時期 (侵入盛期)	発生量
イネミズゾウムシ	平年並 5月第6半旬(5/26～5/31)	平年並

予報の根拠

- (1) 定点調査における成虫の本田侵入始期は平年並の5月第5半旬であったため、本田侵入盛期は平年並の5月第6半旬と推測される。(± /)
- (2) 巡回調査の結果、発生地点率及び成虫の発生量は平年並であった(/ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・ 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2) イネドロオウムシ・イネミズゾウムシ

- ・ 箱施用剤で防除を行った場合でも、要防除密度(下表)を参考に、必要に応じて茎葉散布剤による防除を実施する。

表1 対象害虫の侵入盛期(平年)と要防除密度

害虫名	発生時期	防除時期		要防除密度
		本年推定	平年	
イネドロオウムシ	侵入盛期	5月第6半旬 (5月26～31日)	6月第1半旬 (6月1～5日)	侵入盛期(平年:6月第1半旬)の 成虫密度:100株当たり25頭
	ふ化盛期	6月第2半旬 (6月6～10日)	6月第3半旬 (6月11～15日)	産卵盛期(平年:6月第2半旬)の 卵塊密度:100株当たり80個
イネミズゾウムシ	侵入盛期	5月第6半旬 (5月26～31日)	5月第6半旬 (5月26～31日)	侵入盛期の成虫密度(畦畔際2 m程度):100株当たり140頭 ※晩期栽培の場合は70頭

- ・イネドロオイムシのチアメキサムに対する薬剤感受性低下個体群が確認されているが、同個体群でジアミド系に対する感受性は低下しておらず、効果も認められている。
- ※普及に移す技術 第97号「イネドロオイムシのチアメキサム感受性低下個体群に対するジアミド系殺虫成分の感受性」<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/735193.pdf>

(3) いもち病

- ・本田でのいもち病の発生源となるため、補植終了後の苗は速やかに除去し、裏返す等、適正に処分する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和6年度 発生予察情報	発生予報第2号 りんごー	令和6年5月27日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	--------------------------

ー6月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月16～21日

天候予報:仙台管区气象台5月23日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	多

予報の根拠

- (1) 前年の発生量は平年よりやや多かったことから、伝染源量もやや多いと推測される。(/+)
- (2) 巡回調査の結果、新梢葉における発病葉率及び発生地点率は平年より多かった。(/+)
- (3) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/±～+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、新梢における寄生は確認されなかった。(/ー)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/±～+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、新梢における寄生は確認されなかった。(/ー)
- (2) 乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。(/ー～±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

- ・DMI 剤 (FRAC コード:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11) 及び SDHI 剤 (FRAC コード:7) 並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)斑点落葉病

- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が数日から7日程度と短く、今後1か月は平年並か高温で経過する予報であるため、予防防除に努める。

(3)ハダニ類

- ・ハダニ類の越冬量が多かったほ場では、早期から寄生密度が高くなる傾向にあるので、樹冠内部をよく観察し、**1葉当たり3頭以上**寄生している場合は防除を実施する。

(4)アブラムシ類

- ・発生が見られる場合は、他の害虫との同時防除とするが、寄生種により防除効果の高い薬剤を選定する。また、発生状況によっては追加防除を実施する。
- ・薬剤防除を行う際は、新梢等の寄生部位まで薬剤が行き渡るように散布する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー6月上旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月16～21日

天候予報:仙台管区气象台5月23日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 前年の発生量は平年より少なかったことから、伝染源量は少ないと推測される。(/ー)
- (2) 巡回調査の結果、果そう基部における発病及び果そうや新梢における発病葉は確認されなかった。(/ー)
- (3) 本病の発生には気温20℃前後で多雨が好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/±)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±～+)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤーによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・本県では現在までDMI剤(FRACコード:3)、QoI剤(FRACコード:11)、SDHI剤(FRACコード:7)の耐性菌は確認されていないが、今後もこれらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とする。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)黒星病

- ・過繁茂にならないように新梢を管理するとともに、伝染源となる果そう基部病斑(図1)、発病葉(図2)及び発病果(図3)の早期発見・除去に努め、ほ場外に持ち出して土中深く埋めるなど適切に処分する。
- ・本病の感染から発病までの潜伏期間は14～30日とされている。防除間隔があきすぎないように定期的な予防防除に努める。



図1 果そう基部病斑



図2 葉脈の病斑



図3 果実病斑

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー収穫期までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月16～17日

天候予報:仙台管区气象台5月23日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
かいよう病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、果実に発病が確認された。(/+)
- (2)本病の発生には気温12℃前後で多雨が好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/-)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±~+)

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、果実における発病は確認されなかった。(/-)
- (2)本病の発生には気温20℃前後で多雨が好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/±)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/±~+)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、新梢における寄生は確認されなかった。(/-)
- (2)乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。(/-~±)

病害虫名	発生時期	発生量
コスカシバ	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、主幹部における被害か所数は平年並であった。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少くなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。

- ・スピードスプレーヤーの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は病害虫の発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・DMI 剤 (FRAC コード:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11) 及び SDHI 剤 (FRAC コード:7) 並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)黒星病

- ・第1次伝染源である枝病斑を剪除する。
- ・本病の潜伏期間は長く、果実病斑は新梢に対する伝染源となるため、見つけ次第除去する。
- ・収穫前使用日数に注意して約2週間間隔で薬剤防除を実施する。
- ・本病は日照、通風不良ほ場で発病が多いことから、必要に応じて新梢の間引きを行い、風通しと日当たりをよくする。

(3)アブラムシ類

- ・発生の多いほ場では、他の病害虫の発生状況も考慮して薬剤を選定し防除する。
- ・薬剤防除を行う場合は、枝の先端まで薬剤が行き渡るように散布する。

(4)コスカシバ

- ・春以降でも幼虫は樹皮下にいたことから、食入部位や虫糞が混じった赤褐色の樹脂を見つければ、エアゾール剤で防除を行う。なお、エアゾール剤を使用する際は、虫糞や木くずを取り除き、薬液が逆流するまで噴射する。
- ・幼虫の食入部位からは、虫糞が混じった赤褐色の樹脂が排出される。見つけ次第、幼虫加害部位を上から金槌等で叩いてつぶすか、被害部から針金を挿入して幼虫を刺殺する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

—6月上旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:5月17、20～21日

天候予報:仙台管区气象台5月23日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 温度 15～28℃が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	—	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/ ± ～ +)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ ± ～ +)

病害虫名	発生時期	発生量
べと病	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病葉率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 温度 20～24℃で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/ ±)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ ± ～ +)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/ ± ～ +)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ - ～ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ± ～ +)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/ ± ~ +)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ - ~ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
 発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・薬剤防除は、罹病葉・罹病果を取り除き、ほ場内の伝染源を減らしてから、葉裏にも十分かかるよう散布する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
- ・同一薬剤を多用すると抵抗性が発達する恐れがあるので、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) うどんこ病、べと病、褐斑病

- ・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。
- ・肥料切れや着果過多、樹勢の低下は発病を助長するため、適切な栽培管理を行う。
- ・多湿や昼夜の温度差で結露量が増えると発病が助長されるため、過繁茂とならないよう老化した葉など不要な葉を取り除き、施設内の換気を十分にいき、風通しを良くする。

(3) アザミウマ類

- ・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛び込みに注意する。

(4) コナジラミ類

- ・多発すると排泄物(甘露)によるすすが発生するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を徹底する。
- ・タバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しやすいため、必要に応じて気門封鎖剤や天敵製剤による防除も検討する。

(5) ハダニ類

- ・多発すると1回の薬剤散布のみでは散布ムラ等で十分な効果が得られない場合があるので、薬剤散布の3～5日後にハダニ類が寄生していた場所を観察し、虫の有無や薬剤の効果を確認する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

－6月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:5月20～21日

天候予報:仙台管区气象台5月23日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 18～28℃が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	－	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/ ±)、寄生花率は前年より高かった。(/ +)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/ ± ～ +)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ - ～ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ± ～ +)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ± ～ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。

- ・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に栽培管理を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・前作のすすかび病等の病原菌が付着した誘引資材(クリップ等)が、新しい作の第1次伝染源になる事例が報告されているため、適宜消毒してから使用する。
- ・訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2)うどんこ病

- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤も含めてFRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。ただし、気門封鎖剤は薬害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認してから、植物体全体にムラなく散布する。

(3)アザミウマ類

- ・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛び込みに注意する。

(4)アブラムシ類

- ・多発すると排泄物(甘露)によるすすが発生するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を徹底する。

(5)コナジラミ類

- ・コナジラミ類にはオンシツコナジラミとタバココナジラミがあり、タバココナジラミ(バイオタイプB及びQ)は黄化葉巻病(TYLCV)を媒介し、宮城県内でも黄化葉巻病が確認されているので注意する。
- ・黄化葉巻病耐病性品種は、発病していなくても保毒して伝染源になることがあるため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。
- ・タバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しやすいため、必要に応じて気門封鎖剤や天敵製剤による防除も検討する。

(6)トマトキバガ

- ・これまで国内で未発生であった「トマトキバガ」は、令和3年に熊本県で初めて確認され、宮城県では令和5年7月にフェロモントラップで誘殺が確認された(令和6年5月20日現在、国内の38道府県で確認されている)。
- ・発生が確認された際は、トマトキバガに登録のある農薬を散布する。

○発生が疑われた場合は、最寄りの農業改良普及センターまたは病害虫防除所へ連絡をお願いします。

宮城県病害虫防除所のサイトにトマトキバガのチラシを掲載していますので、参考にしてください。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/52307/chirashi.pdf>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

－6月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:5月16、20日

天候予報:仙台管区气象台5月23日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	－	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は前年より高かった。(/ +)
- (2) 温度 25～28℃、湿度 50～80%が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/ ±)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ ±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	－	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/ ±)、寄生花率は前年よりやや高かったであった。(/ +)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高く(/ ±～+)、降水量は平年並か多いと予報されている。(/ -～±)

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生頭数は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
ハモグリバエ類	－	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ ±)

(2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か高いと予報されている。(/ ± ~ +)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm 目合い)を設置する。
- ・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に整枝剪定を行う。また、病害虫が多発してからの防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・天敵製剤や訪花昆虫を使用しているほ場では、天敵や訪花昆虫への影響日数に注意して使用する薬剤を選択する。
- ・同一薬剤を多用すると抵抗性が発達する恐れがあるので、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>

(2) うどんこ病

- ・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重点をおいた薬剤散布を実施する。多発時は散布間隔を短くし、4～5日間隔でFRACコードが異なる薬剤をローテーション散布する。

(3) アザミウマ類

- ・野外では5～7月の各種雑草の開花期に発生量が多くなるので、施設内への飛込に注意する。

(4) アブラムシ類、コナジラミ類

- ・多発すると排泄物(甘露)によるすすが発生するため、ほ場をよく見回り、施設内への侵入防止と発生初期からの防除を徹底する。
- ・タバココナジラミは薬剤抵抗性が発達しやすいため、必要に応じて気門封鎖剤や天敵製剤による防除も検討する。

(5) ハダニ類

- ・多発すると1回の薬剤散布のみでは散布ムラ等で十分な効果が得られない場合があるので、薬剤散布の3～5日後にハダニ類が寄生していた場所を観察し、虫の有無や薬剤の効果を確認する。効果が見られなかった場合は、気門封鎖剤も含めてIRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム